

令和7年度 教育コミュニケーションコース 修士論文中間発表会

令和7年6月8日（日）

教育コミュニケーションコース修士論文中間発表会が新長田キャンパスにて行われました。

神戸ハーバーランドキャンパスから新長田キャンパスへの移転して、初めての中間発表会でした。

活発な議論が行われ、充実した時間を過ごすことができました。

○学習者の自己変容をもたらす沈黙についての考察—H.-G.ガダマーの対話論を手がかりにして—

○人生100年時代における金融リテラシーの社会的意義と教育効果の研究—高等学校における金融教育の影響に注目して—

○他者との関係性に基づいた自己省察と自己受容に関する研究

○看護基礎教育における主体的な深い学びによる対象理解—協働学習を手がかりに—

○学校における「居場所」についての研究—本を介した場に注目して—

○コミュニティ・スクールにおける公共空間への現れを支える教師の役割の考察—ハンナ・アレントの「公共性」論の検討を中心に—

○江蘇省における近代女子教育の変遷

○子どもの頃の夢が中年期の転機に与える影響—時間的展望の視座から—

○保育者アイデンティティの変容に関する質的研究—中国と日本の幼稚園における保育実践に注目して—

○変容的な人間形成過程としての日本語教師の「成長」に関する—考察—危機的経験のエピソード記述から—

○教員志望者を増やすために現職教員に出来ることとは—チーム担任制に注目して—

○歴史の視点から見る中国の教育価値観の形成—「双減政策」と「受験文化」の矛盾について—

○不登校経験のある児童生徒の学びの保障に関する研究—「学びの多様化学校の実践」に注目して—

○自己調整学習を通して主体的な学習に向かう態度を育成するための授業開発—高校英語科の授業を通して—



修了された先輩方も含め、多くの方からご意見・ご質問をいただき、有意義な会となりました。先生方からは、「あたらないことの面白さも含めて研究」、「急がば回れ、読んで書いて読んで書いての循環」といったアドバイスをいただきました。

今回頂いたご意見を真摯に受け入れて、今後の研究にいかしてまいります。